

第19回 広島湾研究集会

かきを育む海, かきが育む海

広島湾の生物生産を語る上で、カキ養殖とこれを取り巻く海域環境の間の切っても切れない関係を考えることは非常に重要です。

カキ養殖が周辺環境からの影響を受けながら成立している一方で、カキ養殖自体が周辺環境に対して大きな影響を与えています。この持ちつ持たれつの生命の営みは人間活動を含めた生物生産の源となっており、広島湾は人の経済活動によって作り出された典型的な「里海」と言えるでしょう。

本研究集会ではカキ養殖に関連する情報を広く集め、その情報を共有することで、今後の広島湾の生物生産や管理の在り方について議論する場にしたいと、開催に至りました。

日時

2018年
12月21日(金)
13:00~17:30

会場

広島市市民交流プラザ
マルチメディアスタジオ

〒730-0036

広島市中区袋町6番36号
(082) 545-3911

座長:高橋 暁(産総研地質情報)

1. 東北海道のカキを育む餌料生産力と養殖量変化が及ぼす餌料収支への影響

神山孝史(水産機構瀬戸内水研)

2. カキ養殖場と一体となった増殖場造成事業の事例
(アマモ場からカキ筏、そして周辺海域へ)

梶田 淳(水圏リサーチ株)

3. カキ筏直下に設置した貝殻構造物の効果について
(江田島湾での調査事例など)

青山 智(海洋建設株)

座長:吉田勝俊(水研機構瀬戸内水研)

4. 広島湾のマガキ採苗不調原因解明に向けた新たな試み

相田 聡(広島総研水海技セ)

5. 養殖カキ殻の利用について

沖野靖将(丸栄株)

6. 広島県における「かき」の流通の現状

宮林 豊(広島総研水海技セ)

総合討論

座長:山本民次(広大院生物圏)・柳川 建(広島総研水海技セ)

共催

(一社)水産海洋学会 / (公社)日本水産学会中国四国支部 / 広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター / (研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所 / (研)産業技術総合研究所地質調査総合センター / 広島大学大学院生物圏科学研究科・流域圏環境再生プロジェクト研究センター

コンピナー

柳川 建, 山本民次, 吉田勝俊, 高橋 暁